



桜風

合志市立西合志中央小学校学校だより

校訓【健康 工夫 協同】

令和5（2023）年12月22日 第9号

文責：校長 佐藤 正貴

冬休み・・・どんな生活を送るのか・・・。

夏休みや冬休みで、一番私を悩ませたのは宿題でした。悩むことになった大きな理由は、計画的に物事を進める、取り組む事が苦手だったからです。その理由に気がついたのは大人になってからです。このことが苦手だった私は、当然働き出してから（教員になってから）苦勞するわけです。しなければならぬ事は分かっていますが、面倒なことや好きではないことは後回しにしていた習慣は、なかなか直すことはありません。一度身についた生活習慣とは恐ろしいものです。自分を助けることもあれば苦しめることもあります。

父親や母親にやかましく言われてきました。宿題の習慣だけは直すことはありませんでした。やかましく言われるので、宿題をする振りだけは上手になりました。

やかましく言われていたのは宿題だけではありません。家族の一員として家の掃除もさせられました。掃除をする振りというのは、なかなか難しいものでごまかしがききません。そこで学んだことは、いかに手際よく行い、短時間で終わらせるのかという工夫です。掃除機のかけ方、雑巾がけの仕方、窓の拭き方、外回りの落ち葉集め等、年齢を重ねる毎にうまくできるようになってきました。最初は、させられているという感じでしたが、綺麗になると必ず「感謝」されていました。多分、このことが継続できた理由だと思います。掃除ができるということは、今の自分の生活に大きく役立っています。

今、我が子が家族の一員として行動していることに「感謝」を伝えているかということ、できていないことが多いと、この文章を書きながら反省しています。熊本の教育行動指標（教職員の目指す姿です）に「認め・ほめ・励まし・伸ばす」という言葉があります。学校でも家庭でも意識していきたいと思っています。

○人権月間の取組

先日、合志市の人が開催したフェスティバルがありました。その中で、本校の児童が、各学年の代表として発表を行いました。委員会の報告から、学校として、児童がいないこと、それを改善しようと伝えていく姿に、頼りを感じました。5年生の子どもたちは、5年間も学び続けているのに、無知なまま生きています。学校では、差別やいじめを止める事ができず、自分自身で判断することが必要不可欠なことは、人には言わないこと



と、それを改善することも、児童がいないこと、それを改善しようと伝えていく姿に、頼りを感じました。5年生の子どもたちは、5年間も学び続けているのに、無知なまま生きています。学校では、差別やいじめを止める事ができず、自分自身で判断することが必要不可欠なことは、人には言わないこと

○校内持久走大会

12月13・14日に校内持久走大会を行いました。保護者の皆様方には、応援を頂きありがとうございました。子どもも楽しみました。学校が津湖の近くであったため、その内を走ることが、当時のペースで無理なく、一定の距離を走ることが目標となります。自分のペースを知ること、その日の体調に合わせて調整することが最も大切な事となります。それぞれの状況に合わせて活動することが、生涯体育にもつながっています。

